はじめに

奈良大学　教職課程担当　**中　戸　義　雄**

大学の教職関連の授業で「教育現場では」と語られる際、そのほとんどが高等学校までの学校を指しています。そこに大学は含まれていません。それはなぜなのでしょうか。たとえば教育学でいう理論と実践の問題をあてはめて考えれば、高校までの学校は実践の場であり、大学は理論（研究）の場であるという違いを挙げることができるかもしれません。しかし、当然のことながら大学は研究の場であるだけではなく、同時に教育の場でもあります。教職課程を担当する教職員、そして学生にとって大学はまさに教育実践の「現場」であるはずです。『奈良大学教職課程報告』はその大学の現場からの声を、さまざまな観点からお伝えすることをその重要な役割と考えています。

さて、本報告は昨年度に創刊をしました。創刊号の「はじめに」にその目的として「教職課程の学生、卒業生、教職員など本学教職課程にかかわる人たちの相互交流の場となること」と書き記しました。創刊号は学内関係者だけではなく、他大学教職担当者や本学教職課程の卒業生にも配布させていただきました。その結果、思いのほか多くの方々から反響がありました。とくに卒業生からは「奈良大学教職課程と自分とのつながりを再認識した」、「何か自分にできることがあればお手伝いしたい」といった声を聴くことができ、大変心強く感じています。

本学教職課程がより一層充実した教育・研究を進めていくために、今後とも関係各位からのご指導、ご支援をいただきますようお願い申し上げます。

なお、本号の発行にも学生支援センター（教務担当）のスタッフには大変なご助力をいただきました。一言お礼を申し添えておきます。